

- ・2005年東大で開催される春季大会で日中韓気象学会共催の研究集会在開催可能かどうかを実行委員会で検討することとした。
- 電子情報…2004年4月1～30日の気象学会ホームページのアクセス状況(75,509件)。
- 地球環境…公開講演会を本日開催し、盛況であった。参加者の意見を聞いて今後の改善に生かしたい。「天気」に講演の内容を掲載する予定。
- 4. 会員の新規加入等について
新入会員32, 退会6を承認。5月12日現在, 会員数4,270名(内通常会員3,821名)。
- 5. 2004年度総会について
 - (1) 資料の最終確認
議案4日本気象学会定款・細則の一部改定について, 4-1定款の一部改定の第7項で改正後の「召集」を「招集」と訂正する(3か所)こと, 第9項は改訂の必要がないので削除すること,

の2点の修正が承認された。

(2) 総会参加票の集計報告

有権者数3468人中, 投票総数が1833であったことが報告された。

6. 平成18年度以降の大学入試センター試験「地学」出題方式に関する要望

2003年6月に大学入試センターが発表した2006年大学入試センター試験の出題科目及び出題方法によると, 物理と地学の2科目の組み合わせでは受験できない。このことを危惧し, 大学入試センター試験で地学を選択した場合に, ほかの選択科目として物理, 化学, 生物のいずれもが選択できる形式にするよう要望する要望書を地球惑星科学関連学会合同大会共催・協賛学会の各学会長・理事長一同が文部科学省高等教育局, 初等中等教育局, 及び大学入試センター宛てに提出することを承諾した。

第32期第7回理事会議事録

日 時: 2004年5月16日(日) 18時00分～20時00分

会 場: 東京管区気象台会議室(8階)

出席者: 廣田, 古川, 伊藤, 岩崎, 岩嶋, 勝山, 神沢, 木田, 近藤, 住, 田中, 津田, 坪田, 中澤, 新野, 藤部, 藤吉, 萬納寺, 以上18人

その他の出席者: 大西晴夫, 吉田明夫, 杉 正人(気象庁, 以上大会実行委員); 島村, 渡辺(以上事務局); 藤村弘志(気象庁, 関西地区後任理事候補者)

議 題

1. 2004年度総会について

(1) 資料の最終確認

議案4日本気象学会定款・細則の一部改定について, 4-1定款の一部改定の第7項で改正後の「召集」を「招集」と訂正する(3か所)こと, 第9項は改訂の必要がないので削除すること, の2点の修正が承認された。

(2) 総会参加票の集計報告

有権者数3468人中, 投票総数が1833であったことが報告された。

(3) 総会進行の確認

各議題を説明する担当などを確認した。

2. 2005年春季大会の準備状況

東京大学が担当し, 本郷キャンパスで5月15～18日(日～水)の4日間開催される。大学の独立行政法人化で, 2001年の本郷での大会よりも費用がかかることが予想される。予稿集の投稿料を取ることにについて, 事務量の増大, 免除の制度などを考慮に入れて検討する。

3. 2006年春季大会の担当機関について

気象研が担当し, つくば地区で開催される。

4. 日中韓の学術交流について

日中韓の気象学会がその大会に相互に招待することが2003年から始まっていることが報告された。2005年東大で開催される春季大会で日中韓気象学会共催の研究集会在開催可能かどうかを実行委員会で検討することが報告された。これに関して, 学会のセッションの1つとするよりも名称を国際会議とする方が中国や韓国から参加しやすいのではないか, 大会の実行委員会だけでは負担が大きいため別途組織委員会が必要ではないか, などの意見が出された。

5. 京都大学生存圏研究所の全国共同利用について

宙空電波科学研究センターと木質研究所が統合・再編され、京都大学生存圏研究所が今年4月に発足した。生存圏研究所から気象学会宛てに、この研究所を全国共同利用施設とする旨の要望書を関係機関に提出するよう、依頼があった。宙空電波科学研究センターは気象学の発展に大いに貢献してきたことから、要望書を出すこととした。

6. 6月理事会等(第32期第22回常任理事会, 32.33期合同会議, 第33期第1回理事会)の日程について日程を調整した。
7. その他

- ・山本正野論文賞は候補者を二人に絞り込むのに苦労していることが報告された。
- ・2007年の春季大会が125周年記念であることは33期への申し送り事項であることを確認した。
- ・2004年秋季大会の会場費用を9月に支払う必要があることを確認した。

平成16年6月15日

社団法人日本気象学会
議長 萬納寺信崇
署名人 勝山 税
署名人 古川 武彦

2004年度総会議事録

日時：2004年5月17日(月)14時00分～15時20分

場所：学術総合センター 一橋記念講堂

参加者数：総会参加票のうち有効票による出席者1833名、会場出席者108名

【総会成立の要件：通常会員現在総数(2004年4月30日現在3,468名)の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし、総会に出席できない通常会員で、当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者、および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。(定款第38条)】

議事：

1. 開会

萬納寺信崇庶務担当常任理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され、総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に大西晴夫会員(気象庁)を選出した。

3. 理事長挨拶

廣田 勇理事長から次のような挨拶があった。今大会の参加者は今日までで約600名、発表件数は450件と盛会である。今大会の開催を担当した気象庁の実行委員会に感謝する。第32期では新しい気象学会のあり方を議論してきた。限られた専門家だけのためではなく、一般社会に開かれた学会を目指し、今大会では日曜にも開催して地球環境問題に関する公開講演会を実施した。また、国際化を目指し、アジア地域との交流を深める計画も進んでいる。一方で、

通常会員の過半数の総会参加者を集めるのは次第に困難になってきた。これは、学会の運営に対する会員の関心の度合いがさまざまであることによるものであろう。学会活動に対して会員が関心・理解を深めてほしいと思っている。気象学の研究の発展を示すことで、会員の学会運営に対する関心が深まることを期待する。

4. 学会賞授与

学会賞候補者推薦委員会担当の近藤 豊常任理事が選定理由を説明し、廣田 勇理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。本年は2件、2名に与えられた。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

- ・中村 尚(東京大学大学院理学系研究科)
中・高緯度の気候系と総観規模現象とのスケール間相互作用の力学的研究
- ・木本昌秀(東京大学気候システム研究センター)
グローバルな気候系の変動メカニズムに関する力学的研究

5. 藤原賞授与

藤原賞候補者推薦委員会担当の住 明正常任理事が選定理由を説明し、廣田 勇理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。本年は2件、2名に与えられた。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

- ・笹野泰弘(国立環境研究所, 現在内閣府総合科学技術会議出向)